

[四日市市会場]

1. 開催日時・会場

- ・ **日時** 平成14年11月16日（土）13：30～15：30、晴れ
- ・ **会場** じばさん三重 5階大研修室

2. 出演者構成

- ・ **コーディネーター**
渡辺 悌爾 （三重大学人文学部長）
- ・ **地域づくり代表者**
稲毛由美子 （四日市市在住）
岡村 俊宏 （四日市市在住）
川谷 光代 （鈴鹿市在住）
小寺 徹也 （津市在住）
善家 彰則 （四日市市在住）
豊田由紀美 （亀山市在住）
西羽 晃 （桑名市在住）
坂野 栄一 （桑名市在住）
矢野 晶久 （三重郡朝日町在住）
- ・ **行政側出演者**
元野 一生 （中部地方整備局企画部技術企画官）
開口 進 （中部運輸局企画振興部次長）
鈴木 周作 （三重県北勢県民局長）
- ・ **聴講者数**
計83名（男性78名、女性5名）
- ・ **会場風景**



3. 会議録

司会 ただいまよりまんなかビジョン討論会を開始させていただきます。私は、本討論会の進行役を担当させていただきます国土交通省中部地方整備局の船戸です。よろしくお願いいたします。

さて、国土交通省では、国民の皆様との双方向の対話型の行政を重視して仕事を進めておりますが、これからの中部ブロックの地域づくりの基本方針となるまんなかビジョンづくりでも、地域の皆様の意見を積極的にお聞きすることとしております。このまんなかビジョン討論会は、地域の皆様の意見を伺う場として中部4県、計8カ所で討論会を計画しています。本日は、4カ所目の討論会として四日市市で開催させていただきます。地域の実状を踏まえた実りある討論会にしていきたいと考えていますので、皆様よろしくお願いいたします。それでは、ビジョン討論会に先立ち、主催者を代表して中部地方整備局技術企画官の元野よりご挨拶を申し上げます。

元野 中部地方整備局企画官の元野です。本日は、まんなかビジョン討論会に多数のご出席を賜り誠にありがとうございます。本日のコーディネーターは、三重大学教授の渡辺悌爾先生にお願いしております。発言者の方は、四日市、鈴鹿、津、亀山、桑名の各市と朝日町の地域づくりや経済界でご活躍の方、9名にご出演をいただいています。また、行政側は、国土交通省から2名、三重県から1名が参加しております。

さて、21世紀に持続ある元気な地域社会を作っていくためには、内外の社会環境を十分認識した上で地域のポテンシャルを最大限に発揮できることが必要になると考えます。そのためには地域全体で共有できる地域づくりの目標、いわゆるビジョンが必要ではないかと考えています。現在、中部ブロックでは、東海4県及び名古屋市の自治体、地元経済界、さらには国土交通省が共同で中部ブロック全体の目指すべき方向を提案するまんなかビジョンの策定を進めています。国民的な議論を深めていくために、今年8月末には中間取りまとめを公表しました。

今回のまんなかビジョン討論会は、中部地方の未来に向けてどのような目標を持って地域づくりを進めるのかという点について、地域の皆様と議論を深めることを目的にしています。限られた時間ですが、皆様から忌憚のないご提案、ご意見をいただければと考えております。

司会 ありがとうございました。ここからの討論会の進行は、三重大学人文学部長の渡辺先生にコーディネーターをお願いいたします。渡辺先生よろしくお願いいたします。

渡辺 今日は、お越しいただきましてたいへんありがたく思います。私、先週、伊勢で三重県の第1回のこの討論会に出させていただきました。発言者の方も来場者の方も、素晴らしい生き生きとした意見を聞かせていただき、本当に良い勉強になったというような感想をいただきました。是非、伊勢に負けず劣らず活発な、生き生きとしたご意見を出していただき、まんなかビジョンに反映させていただきたいと思います。先週、「まんなかビジョンではおとなしいから『どまんなかビジョン』でいこうじゃないか。」という話も出まして、是非、整備局さんには「どまんなかビジョン」でいってもらいたいと思っています。どまんなからしい活力とキラッと光るものを期待しています。

本日のプログラムは、第1回目に発言者の皆さんに3分程度でお話をいただきます。そして、その後でビジョンについての説明を行い、途中でアンケートを会場で行います。そして、第2回目の発言とアンケートの結果の発表をしていただきます。そこで、一般の聴講者の皆さんに時間の許す限りご発言をいただきたいと思います。限られた時間ですが、よろしくお願いいたします。

それではまず最初に、発言者の皆さんに1分程度で自己紹介をしていただきたいと思います。

稲毛 私は、四日市市内在住の稲毛由美子と申します。今の若者たちが、ずっと四日市市に住んでいたい、良い街だ、魅力ある街だと思えるような、そういう街であつたらいいなと思っています。

岡村 私は、四日市市のときわ地区の岡村と申します。保護者の代表みたいな形で、PTA活動をやっています。子供たちが本当ににこやかに楽しく過ごせる町、これからのご老人の方や若者たちが、みんな一緒に和気藹々と話ができるような町にしていきたいと思っています。

川谷 鈴鹿市の川谷光代と申します。鈴鹿市は、サーキットがあり、ホンダさんもありまして国際的な町ですが、さらに住みやすく、国際的な、豊かな町に作っていききたいと思っています。

小寺 津市の小寺徹也と申します。こういうテーマについて、我々住民、市民が自発的に責任を持って取り組めるような市民になるといいなと思っています。

善家 四日市市内に住んでいる善家と申します。四日市の臨海部のコンビナート企業に携わっている住民という立場で出席の依頼を受けました。モノづくりの国際競争力の構築という観点で、社会と連携して、社会をクリエイトできればいいかなと思っています。

豊田 亀山市の豊田由紀美と申します。亀山で設計事務所をしています建築士です。街がそれぞれの地方、それぞれの地域で個性的なまちづくりを進められるようになるといいと思っています。

西羽 桑名市の西羽晃と申します。郷土史の研究、歴史の研究をしています。また、現在のまちづくり等にも関係しています。私は、色々な活動の中で自分たちの住んでいる街が歩いて暮らせるまちになることを目標に取り組んでいるところです。

坂野 桑名市の坂野栄一と申します。私は、国土交通省木曽川下流工事事務所の木曽三川下流域交流会議に出席しており、社会資本整備、環境整備、地盤整備等色々勉強させていただいている者です。すべての事業が住民参加型になると良いという思いを持って今日参加いたしました。

矢野 三重郡朝日町の矢野晶久と申します。青年会議所で活動しています。中部地域が日本のモノづくり、もう少し具体的に言えば中国にはできないモノづくりの最後の砦になれば良いと思います。

鈴木 三重県北勢県民局の鈴木です。北勢地域は、古くから日本の東西を結ぶ最も重要な東海道が通っており、その中で人や物あるいは文化の交流する地域として発展をしてきたと思っています。

北勢は面積では県全体の19%ですが、人口では県全体の44%を占めています。産業面では、製造品出荷額が県全体の64%と極めて高い割合を占めています。とりわけ第2次産業、第3次産業

のきわめて盛んな地域であることは、皆さんよくご承知いただいているとおりです。そうした中で、このすばらしい北勢地域の歴史とか文化、あるいは豊かな産業を生かした、活力あふれる、個性あふれる豊かな地域づくりを是非地域の皆様と一緒に進めたいという形で取り組んでおりますので、よろしくお願いいたします。

開口 中部運輸局の開口です。企画振興部に勤務しており、交通の企画部門、中部国際空港のアクセス関係、観光振興と物流関係を担当しています。また運輸局は、車の車検・登録、鉄道、自動車、自動車の中でもトラック・バス・タクシーを担当しています。その他、海の交通、あるいは船舶も担当しています。中部の場合は、自家用車の依存度が全国に比べて高いのですが、中でも三重県は依存度が非常に高く、自家用に依存した地域であると言えます。そして、三重県には、すばらしい観光施設がたくさんありますので、それを生かしながらまちづくりをするのもひとつの方法かなと思っています。

元野 中部地方整備局技術企画官の元野と申します。地域づくり関係を担当しています。

まんなかビジョンを検討しながら考えていることが2つほどあります。1つは、日本の成長のエンジンに欠けているものが、2つあると言われていることです。1つは、国際的な競争力を持つ地域かどうかということであり、都市の国際化や産業の国際競争力、さらには東海道という日本の東西を結ぶ大動脈を抱える地域として、その大動脈をどうやって強化するのかというのが地域の国際競争力の強化というテーマです。

成長のエンジンとしてもう1つ欠けているものは、国内の消費マーケットが非常に乏しく、消費需要が弱いということです。これは、地域の観光や農村とか都市のコミュニティーをどうやって魅力的なものにするのか。さらには、どのようにして女性や高齢者や子供が安心して住める社会にするのか。そういうことが非常に大切ではないかと考えております。

さらに、日本人は過去50年間、欧米の社会を目指して、その方向に突き進んできましたが、今はトップリーダーになってきています。一方、極東地域の中では今後、中国、東南アジアが伸びています。そうすると、我々日本人のライフスタイル、例えば風土とか衣食住、そういうものが中部の日本人以外だけではなく、極東地域の人にとってどれほど魅力的なものになるのかということが、今後目指す課題ではないかと考えております。まんなかビジョン討論会を通して、そうしたことを検討していきたいと考えております。

渡辺 それでは、発言者の皆さんに第1回目の発言をお願いします。ここでは「私が考える地域づくり」について、日頃の活動から得られる問題意識を率直にご発言いただきたいと思います。

稲毛 四日市市の社会福祉協議会に勤務しています。仕事のかたわら市民活動として、女性の視点によるまちづくりに携わっています。女性も弱者の一人です。子供たち、老人たち、すべての人にとって住みやすいまちづくりは何だろうということを、いつも考えながら活動しています。

障害をお持ちの方々と一緒に町中を歩いていると、道路の段差とか歩道の真ん中に立てられた電柱が、非常に通行の障害になっています。すべての道が、歩行者専用道路、自転車専用道路、自動車専用道路と車線を分けて作られれば良いのですが、すべての道が広いわけではないので難しいことです。車椅子や松葉杖の人やお年寄りにとって、本当に通りやすい道とはどんな道だろうかと思っています。

私は、介護保険の仕事で1日5件くらいを訪問しますが、車の移動では1号線は全く使いません。何故なら、渋滞で移動にものすごく時間がかかる。そうすると、いわゆる生活道路を通り抜けることになります。そうすると、人や車や自転車やベビーカーなどの混在する中を車で抜けていくわけです。そうすると、やはり道路をもっとすっきりさせて、みんなが安心・安全に通れる道路が必要不可欠です。すっきりさせるためには、一方通行道路を増やしたらどうでしょう。あるいは、見通しを悪くするお店ののぼりや看板類を道路から排除してほしいと痛切に感じています。

やはり道路の景観も大切なことだと思います。日常使う生活道路は、中部地区を考えると小さなことですが、普段一番痛切に感じているところであり、私たちの生活になくてはならないところなので、整備は急務ではないかと感じています。

奥村 私は、PTA活動のなかで学校の補助担の代表として活動しています。ときわ地区のPTA活動を通じて、社会福祉協議会の役職などを務めさせていただき、その中で地域の方々の活動を知ったり、色々な形で触れ合う機会があります。また、四日市交通安全母の会の保護者代表として交通安全にも関わっており、子供たちの安全や教育にも関わっています。

私が地域活動を通じて感じるのは、保護者が一人で困っているよりも顔を合わせて話し合うことで会員相互の理解が高められていくような、PTAなどの色々な活動が必要ではないかということです。先日、地域活動で文化祭を開きました。その中で、子供たちが老人会の人にたこ作りを教えていただき、また、民生委員さんに高齢者の方を演劇に連れてきていただいた。このように地域の中で、民生の方や老人会の方や子供たちや若者たちが、様々な形で交流を持つということが、地域を活性化していくと思います。地域の中でも、小さな地域から大きな地域へというような形で高めていけば何か作れるのではないかと思います。

また、地区センターがありますが、市の財政上縮小されていていっているという状態です。地区センターは、色々な活動の拠点ですので、力をつけて欲しいと思います。

川谷 鈴鹿から四日市に向かって車で来ましたが、相変わらず大変混雑していました。鈴鹿から四日市への道がどうしてこんなに混雑するのかといつも思いながら、買物をするのにも行き来が大変と思っている次第です。もう少し道が楽にアクセスできるようになれば、四日市の駅前の空洞化も解決するのではないかと思います。また、鈴鹿市も至る所で道が寸断されており、そういう所の道がつながってくれたら良いなと思っています。

また、鈴鹿市を含む合併問題について、とても気になっていることがあります。鈴鹿商工会議所が行った合併に関するアンケートでは、亀山・関町と合併したいという意見が51%以上あり、四日市と合併をしたいという意見は、わずか1%に過ぎないという結果です。四日市を含んで亀山、関という合併でも2.8%という結果が出ています。市が行ったアンケートの結果では、ちょっと内容が誘導的であったり、あるいは反対するという人にはアンケートをさせてもらえず、選択させてもらえないアンケートになっていることに関して、市民として疑問に感じています。

亀山市、関はもともと同じような地域でしたので、親しみの深い地域だと思っています。ハローワークも福祉、医療に関しても地域的に同じような所で、税務管轄も鈴鹿市、関、亀山というのは同じ税務管轄です。また、工業的な部分でも亀山の自宅から鈴鹿に通われる方も非常に多い。また、工業だけでなく鈴鹿は農業も盛んな地域です。鈴鹿農協は、亀山と鈴鹿、鈴鹿山脈の麓を含めた地域を対象としています。今回、市民の意見が、なかなか聞き入れてもらえない形で合併

問題が進んでいることを疑問に思います。

小寺 私は、津市で中部新国際空港への海上アクセス港を生かしたまちづくりに関係した活動をしています。国土交通省の予算がつく前から、行政の後押しも含めて市民も海上アクセスを望んでいるという意見を表明するために、そういう団体を立ち上げて活動しております。

ところで、国や県や市では、色々大きなプロジェクトを発表しますが、そういうプロジェクトが進んでいくときに我々市民側は賛成の声を出す機会がありません。いわゆる反対派の方は結構大きな声を出されますが、賛成をする市民が使いやすいような形で積み上げていくというプロセスが無いと感じています。色々な審議会や研究会に市民の参加を呼びかけられていますが、いわゆる自治会連合とか青年団体の会長というような、決まりきった方だけが参加をしているという実状があり、いわゆるアリバイ作りの的に使われているところもあるのではないかと感じております。

活動については、アクセス港を生かして街をいかに発展させるか、三重県の真ん中としてキラッと輝かせるような街になるようにということで活動しております。

善家 私は、モノづくりの国際競争力をどう再生すべきかという観点で会社の中でも色々活動をしています。日本の国際競争力が無くなったとか、あるいは第2次産業は日本ではもうだめだとか、そういうことが言われて久しいですが、昨年1月に当社の関与するエチレン設備を止めました。これは国際競争力というよりは、むしろ国内競争力で四日市が負けたという結果でした。これは企業の自助努力の部分とそれ以外の要因とに分けなければいけないと思いますが、臨海部で色々活動されている企業の方が言われるには、四日市に企業を立地する、あるいは事業活動を始めるという魅力に欠けるのではないかと。あるいは、交通の便が非常に悪いということをよく言われます。私も企業で活動する中で、そういうことを多々実感するわけです。そうした中で、行政の方でも昨年あたりから本格的に対策が進められ始めました。具体的には、臨海部の再生を検討する委員会が定例的に開かれ、企業の意見と行政側の意見を集めて、どうすれば四日市がかつての輝きを取り戻せるのかという観点で、1年間くらい色々検討をしてきました。

その過程で、交通の渋滞が一番大きなネックになっているような気がしました。四日市とか名古屋は日本の真ん中に位置しており、国内マーケットだけを見れば非常に消費地に近い。物流面でも道路など、色々なものを整備すれば有利な位置にあるわけです。そういったところを問題点としてどんどん浮き彫りにしていこうとしています。現在、内閣が進めている構造改革特区について、我々も進めようとしており、行政の支援をいただきながら進めています。十数年前に中国で経済特区を導入した結果、産業が花開いたという事例もありますので、それに近いものができれば非常に良い全国的なモデルになるのではないかと思います。

モノづくりというのは、マーケティングから始まり、技術開発、製造設備の整備、モノを作って売するという流れになりますが、製造設備を作るところで結構、法律や条例などの企業独自で解決できないような問題が多々ありますので、先程のような特区を活用しながら再生できればと思います。

豊田 私は、亀山で女性の建築史のグループを作って地域活動をしてきました。亀山は4万人という小さい街なので、少し目立ってくると必ず行政の方から、色々な委員会に参加する機会をいただきます。その中の一つに、道路協会の地域女性代表というものがあり、三重県の大会に出席

しました。それぞれの地域の道路事情について話が出る中で、南部の方では道路問題が切実で、「命の道」だと仰る。北勢では、先程から道路渋滞が問題だという話ですが、南部では命の道だと仰るので北勢は贅沢かなと思いました。でも考えてみたら、そういう地域間の格差があること自体がおかしく、道路整備をするときに地域の本当の実情を知らずに、道路の要る要らないを誰が決めるのだろうかと思いました。本当にそこに住んでいる人たちが要ると言えば本当に要るのではないかと。私どもは、亀山だけを考えてまちづくりをしてきましたが、市町村の枠を飛び越えてもっと南の方たちのことを私たちも考える必要があるのではないかと考えております。

また、亀山には大企業が立地することになり、大変市民の心の中では盛り上がっています。まだ何も形にはなりません、マンションが建つだのホテルが建つだの、みんながわくわくしています。道路があるから企業が来たと思っています。どんな田舎でも何かきっかけがあればすごく元気な地域になれるのではないかと。そのきっかけを行政にもお願いしなくてはいけないかなと思っています。ただ、行政ばかりに頼るのではなく、私たちでできる活動は地道にやって参りたいと思います。

西羽 先程、歩いて暮らすまちづくりについて申し上げました。江戸時代まではみんな歩いていました。私は、江戸時代のことを研究していますが、江戸時代は本当に地方が輝いていた時代です。いわゆる地方分権の時代だったわけです。今でも古い町並み等残っており、そういったものも地方が輝いていた証拠です。地方へ行けば独自の産物、特産品、食べ物、文化、あるいは方言があり、非常に人間らしい生活があったわけです。それが明治以後、中央集権になって、すべて東京集中、一極集中ということになりました。そのために、右へならえて全国各地に銀座通りができ、新幹線の同じような駅ができ、全然個性が無くなってきたと思います。

そういう歴史というものをもう一度見直し、歴史から学んで未来を築かなくてはいかんというのが、私の基本的な考えです。私は歴史講座を持っていますが、聴講者には歴史を学ぶのではありません、歴史から学ぶのですよといつも話しています。そういう観点が、次の世代を考える場合のビジョンづくりに大きな要素になるのではないかと考えております。

坂野 平成12年の9月に木曾川下流工事事務所の調査課を事務局とする木曾三川下流域交流会議において基本ルールが4つ作られました。そこでは、すべての人がすべての発言をすべて保障するということが会議が行われます。また会議では、環境問題に非常に重きを置かれるようになりました。ご存じのとおり、長良川河口堰の是非の問題では、激論が闘わされました。木曾三川下流域交流会議は、月に1回開かれますが、そこでの意見も、コンクリートばかりの施設を作ったって何も景観がないじゃないか、どこに生活の安らぎを求めるんだというようなことが話の中でとても出ます。

結局、そうならざるを得ないのではないかとと思われる部分もありますが、私たちは河川環境の保護に重点を置いて活動しようではないかということで、今年度から活動に入りました。主な事業は、ヨシの試験植栽で、今、試験中です。それから、木曾三川すべてのクリーン作戦。年に1回、上流から下流まで、すべての方々に参加をいただくという目標で清掃に携わっていただいております。これは年に1回ですが、下流域だけで、去年は約6,000人の参加がありました。

また、水上バイクの河川利用の問題については、法律上規制できないことで、基本ルールを建設省の音頭により業者と水面利用者間にて自主的に作っていただき、住民の方々の自主的な裁量で行っていただきました。それから、北勢県民局企画調整部が事務局になって、家庭ゴミの減量

化、家庭の省エネ運動、マイバッグ運動に取り組んでおり、環境啓発事業の中ではNPOの問題とか学校教育委員会の問題等がございます。

矢野 今回は四日市青年会議所の立場から、まちづくりについてお話をさせていただきます。まんなかビジョンについて我々が考えているのは、名古屋市を補完するような50万から70万規模の都市を名古屋の近郊に作るべきだということです。東京に横浜、大阪に神戸があるように、名古屋から1時間以内のところに大きな街を作って補完していけば、中部地域全体として大きな発展が、今以上の発展が見込めるのではないかと考えています。50万から70万規模の都市であれば、30万以下、20万、10万の街ではなかなかできないところもスタッフをそろえていけるのではないかと考えています。合併のメリットみたいになりますが、中部地域全体で考えればそういう街はあってしかるべきではないかと考えています。愛知、岐阜、三重、静岡という、我々に身近な東海地域で考えれば、地理的に港が利用できて、さらに産業をうまく利用していけるような50万から70万くらいの、政令指定都市くらいの街をつくれれば、特区的なものも作って、そこでまた新たな産業を起こせば産業の面から非常に大きな効果が期待できると思います。

四日市の井上市長とのお話しの中で、コンビナートから企業が逃げていくというお話がありました。なぜ逃げていくのかというと、今の四日市のコンビナート地域では一度工場を壊すと、色々な法律の絡みでもう建てられなくなるのだということでした。だから、建物が古くなった会社は、みんな鹿島の方に逃げて行ってしまうと仰っておられました。

公害問題で苦しんだ四日市ですが、一昔前と今とでは技術的なレベルも異なっているので、今のままの法律が必ずしも正しいというわけでもないと思いますので、そういう意味も含めて一つの大きな街を名古屋の近くに作ってしかるべきなのではないかと思っています。

渡辺 ありがとうございます。発言者の皆さんに、私が考える地域づくりということで、日常生活とか地域活動の中で感じていらっしゃる、最近の問題意識等、率直にご説明いただきました。

皆さんの多様な考え方を生かしていくような枠組みづくり、ビジョン、目指すべき方向、そういうことについて、皆さんの意見や感性を取り入れた生き生きとした方向づけが必要だと思います。そういった意味で、まんなかビジョンは将来我々が目指すべき方向について考えさせる良い機会だと思います。そこで、このビジョンについて簡単に説明を事務局からいただき、アンケートに進みたいと思います。それでは、よろしくお願いします。

司会 パンフレットの表紙をご覧ください。私どもの中部は日本の真ん中、日の丸弁当の梅干のような位置にございます。21世紀を豊かで明るい時代にするために、皆さんのご意見をお聞きしながら、このお弁当の中味を充実した幕の内弁当にしていきたいと思っています。

それでは、表紙をお開きください。左側にビジョンのメインテーマが書いてございます。中部が日本の真ん中であることは、今後の地域全体の発展にとって非常に有利であると同時に、日本の中で果たすべき役割と責任も非常に重いものがあると考えます。この点を意識して、メインテーマは「日本の真ん中である地理的優位性を生かし、暮らし、産業が調和した、世界に誇れる中部の創造」といたしました。

次に、パンフレットの見方を簡単に説明させていただきます。ビジョン案では、世界に誇れる中部を目指して7つの大きな目標を掲げました。まず、①の標題ですが、これが7つの大目標と

っており、大きな写真はこの目標をイメージしたものです。標題の下に簡単な説明と図表があります。番号は②と④です。図表は目標に対応した現状の課題などを説明したものです。その下にアウトカム目標を定めてあります。番号は5番です。アウトカムとは、仕事の成果を言葉で表わしたもので、従来は例えば道路を作るのに幾ら予算をかけて何キロメートル作りますというような目標の表わし方でしたが、これからは仕事の成果を重視するようにしていきます。⑥は、アウトカム指標を例示したものです。ここではアウトカム目標の成果を客観的に判断するための数値目標の例を示しています。最後の⑦は、私どもの掲げた目標に向けた行動の考え方と方針のポイントを説明しています。

それでは、次のページをお開きください。ローマ数字で番号が振ってあります。目標のⅠ番は、モノづくりなど産業の国際競争力の強化です。昨今、日本の国際競争力の低下が言われていますが、そういう中で中部は今後も日本のモノづくりの中心であり続けると考えますし、そうあるべきと考えて本目標を掲げました。

目標のⅡは、「世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」です。地域が発展するためには、その地域の拠点都市の活気を生み出すことによって人が集まり、情報が集まり、物が集まって、近隣地域全体にその利益が享受され则认为ます。それぞれの地域の拠点となる都市の発展が地域の発展のためには重要な役割を果たすと考えました。

目標のⅢは、「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」です。私たちの日々の活動は交流によって成り立っており、通勤通学のための移動や買物やレジャーなども交流の一つです。地域の経済活動を活性化して地域発展の原動力とするために、今にも増して新たな交流の拡大が必要だと考えました。

目標のⅣは、「日本の真ん中である優位性を生かして、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点の整備による国内外交流の推進」です。中部は東西の大動脈を有しており、これを健全な状態で維持保全しながら有効に機能させ、さらに東西の大きな流れや国際的な交流を南北軸の形成により、南は東紀州、北は日本海側まで拡大させていくことを考えました。

目標のⅤは、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興」です。中部には非常に豊かな自然、歴史、文化の資源があります。これらの豊かな資源を守ることはもとより、活用しながら地域発展を目指すとともに、さらには新たに創出していくことが必要だと考えました。

目標のⅥは、「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」です。今後、少子高齢化は着実に進みますが、まだまだお年寄りの方などには大変不自由な生活環境しか実現されていないのが現状だと感じています。豊かでゆったりとした生活には何が必要なのか。皆様のご意見をもとに充実させていきたいと考えております。

最後になりますが、目標のⅦは、「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」です。日本は非常に脆弱な国土です。急峻な河川や険しい山々に囲まれながら、さらに中部地方においては東海地震などの大規模な地震が想定されるなど、多岐に渡る自然災害の危機に直面しています。尊い生命や財産を守るための備えを早急に充実させることが必要だと考えております。

説明は以上でございます。

渡辺 ビジョンの概略説明をいただきました。次に、まんなかビジョンについて会場の皆様のご意見を聴取する、その導入として会場の皆様へのアンケートを行いたいと思います。

司会 今、中部の目指すべき方向を7つご説明させていただきました。まず、当地域を中心とした北勢地域で他の地域より重点的に取り組む必要があると思われる方向性の番号をアンケートの黄色の調査用紙にご記入ください。それから、もう1枚、緑色の方が中部の課題となっておりますので、こちらの方も一番優先される番号をご記入いただきたいと思います。これについては、結果が集計でき次第報告させていただきます。

渡辺 集計までに少々時間がかかりますので、結果が出たら発表していただきます。このビジョンに対する考え方について発言者の皆さんに、第2回目のご発言をいただきたいと思います。

日本のまんなかに位置する中部が、東京や大阪や北海道とは違う地域の特色づくりを進める上で、どういうところにポイントを置くべきかについて、7つの大事なことをパンフレットに示されました。それぞれの立場でみんな大事だと思います。その中で限られた資源を、今この時期に中部のどういう方向に結集していけばいいのか。そういうメリハリづくりが非常に大事だろうと思います。それぞれの地域にはそれぞれの歴史的な特色があり、風土があるわけであって、よその真似をしても空回りをする。だから、よそには無い特色を見つけて、それをうんと伸ばしていくことによって日本全体あるいは世界的に貢献するということを、我々は広い視野から考えなければいけない。活動はそれぞれローカルですから、行動はローカルに、しかしものの見方は幅広くグローバルにということです。そういうものの見方で見直してみようという、今日は勉強の機会だと思います。

それでは、早速発言者の皆さんに第2回目のご発言をいただきたいと思います。

矢野 やはり中部地域はモノづくりかなというのがありますので、限られた資源を集中するのであればまずそこに集中していくべきではないかと思っております。モノづくりといっても非常に範囲は広いのですが、中部地区といえば自動車など産業機械の部分が大きい。その機械を作る元になる機械、いわゆるマザーマシン、工作機械の日本はトップ生産国でありながら、その利用順位でいくと世界で6番目くらいです。工作機械は作っても、実際にそれを使ってモノづくりをしているのかというと、もうすでに5つの国に抜かれてしまっているという状況です。忘れられかけているモノづくりを、もう少し活発にできるような方針というか、その辺の国際競争力をつけることと同時に、交流というか流通をさらに進めていって、ソフトの面とハードの面で確固たる地位というか、東京、大阪とはまた違った味が出せるモノづくりの中部地域のイメージを前面に押し出せるような方向で行っていただきたいと思いますと考えております。

坂野 これまでの議論を通じて、国や県は皆さん門戸を開いて住民からの声を待っていると感じました。ですから、皆さん方も各地域において要望等がある場合には、遠慮なく堂々と胸を張って言っていただければ良いのではないかと思います。また、住民参加による地域づくりについては、負の部分も考えていくべきではないか。私は関係ないから知らないというような、負の部分も考えていくべきではないかと思っております。

それから、モノづくりについては、東海地区と北陸地区に分けた形で大きく視野を広げて見ていく必要があるのではないだろうか。いわゆるモノづくり、ものを作ってそこへ建ててしまえば良いというものではなく、全体を視野に入れた社会資本整備を行なっていただく。そういう観点に立ってものを考えていただければ、この東海地区の重要性がなお一層増してくるのではないかと考えております。

西羽 歩いて暮らせる街ということに一番こだわっているわけですが、その裏付けとして公共交通機関の充実がどうしても必要になります。昨年でしたか、名古屋鉄道が一部路線を廃止いたしました。桑名市の近鉄の北勢線が廃止になるということで、かなりごたごたとしましたが、何とか存続することになりました。しかし、既成の交通機関の廃止というのはとんでもない話で、それが存続できるような方策を考えていかなければならないと思います。単に公的資金を投入して赤字を支えるという問題ではない。電車に乗るような仕掛け。駅に大きな駐車場を設けて、そこから電車に乗り換えるというようなことが大事だろうと思います。

それから、道路に関しては、高速道路はもういらないと思っています。道路が欲しいと言われる所にも、国道は既にあるわけです。こういう既存の道路をもっと広げ、カーブの多い所はカーブを少なくし、迂回している所はトンネルや橋を作る。既存の道路をもっと拡充していくことが必要であろうと思います。

物流では、船を利用することを考えたい。飛行機も良いですが、一番効率的なのは海運です。太平洋岸に面して大きな港を作っていく。例えば、豊橋港や清水港、三重県であれば松阪港などの港の機能をもっと大きくしていくべきだと思います。もちろん荷役などの港湾機能をもっと充実する必要があります。韓国の釜山などでは、24時間稼働するのに日本は昼間だけだとか色々規制がある。そういうものはある程度撤廃する必要があると思います。

また、今の道路は機能だけで潤いのないことが気にかかります。最近、デザインの優れた橋ができるなど少し変わってきましたが、大抵の橋はガードレールに毛の生えたような欄干がついている。これでは面白くないと思います。これからの世代の子供たちに情緒を植え付けるためにも、道路の文化というような、文化的なデザインも必要ではないかと思っています。

豊田 10月の中頃に、私が所属する建築士会の全国大会が三重県で開かれました。50年に1度なので、何年も前から準備をしており、そのために去年は仙台に行きました。そのときに三重県のアンケートをしたら、誰も三重県を知らない。鈴鹿は知っていても、鈴鹿が三重県にあることを知らないのです。名古屋は知っていても他は知らないのではないかと個性があまりないのではないかと感じました。

私は、木を探しにお施主さんと一緒に熊野とか尾鷲に行きます。亀山から尾鷲や熊野へ行くには、かなり時間がかかります。紀州の山の製材屋さんへ行くと、すごく単価も安い。だけど、亀山で建てようとするときすごく高い。なぜかという、持ってくるのにお金がかかるということなのです。

三重県の南の方に行くと、あまり中部という感覚はなく、どちらかというと関西寄りの感覚になっているところが多いのではないかと。亀山や伊賀も、どちらかと言えば関西の文化に近いところもあるのではないかと思います。魅力ある中部にするためには、亀山から名古屋まで行くのにすごく時間がかかるので、そうしたことも踏まえて、名古屋と一体感を持つような何かが必要ではないかと考えているところです。

善家 7つの目標の中では、I番のモノづくりに多くの方の関心があるようですが、先端産業を三重県あるいは四日市に集積すべきではないかと思っています。例えば、亀山のシャープ工場とかあいったディスプレイ分野が考えられます。ディスプレイといっても、プラズマもあったり、今後、試作品も含めてどんどんそういったものが出てくる。そうすると、ディスプレイ市場だけ

で1兆円産業と言われている。

我々の所であれば、従来からのプラスチック技術をどんどん提供していったって、開発に関してはそういったものに近い所にあります。したがって、そうした有利な面を使いながら、四日市にそういった事業を展開していこうという戦略を考えています。あるいは、そんなに先端でなくても、例えば自動車への色々な材料の提供を進めています。たぶん今後、循環型社会に移行していくと、ほとんど100パーセントプラスチックになると思います。あるいは、燃料に関しても燃料電池車など、こういう分野に現在の臨海部の企業は強みを持っております。

したがって、名古屋の自動車産業への材料提供、あるいは、中部国際空港を使った空輸による世界への輸出も十分考えられる。中部国際空港へのアクセスでは、どうも四日市は分が悪いようですが、そういった背景をにらんで大所高所からご判断いただきたいと思います。

また、ナノカーボンというものをご存じかと思います。ああいったものもこれから、医療分野等の色々な用途開発が為されていきます。ただ、まだまだ歩留まりが悪くて製造コストが高い。この辺はたぶん2、3年かかると思いますが、そうしたものが開発できた時には先端産業の一つとして四日市に立地すれば非常に付加価値の高い、世界に自慢できるような、そういったものができてくると考えております。もちろん、交通インフラ整備、あるいは基盤コストの低減といったものがまんなかビジョンでは望まれるのではないかと思います。

小寺 モノづくりでは、今の日本人の高い賃金水準を維持したまま中国に製造だけでは勝てないと思います。ですから、特化したものが需要だと思えます。中部地方の特化とは、いわゆるお金持ちが集まる地域みたいなものができれば良いなと思います。お金を持った高齢者が、東京、大阪方面から定年退職後、中部地域に居住する。温暖であり、色々な自然環境にも恵まれていますし、またこれから都市間交通が充実すれば移動も非常に便利です。細かいものを作るのは、アメリカ方面に船で行くなら東北地方が近いですから、東北地方が対アメリカということで。中部は、老後を健やかに過ごせる街ということで、お金を持って中部に引っ越してきてもらうという、何かそういうようなことができないか。特色ということでは、そこに生き残る、住みやすい、住みたくなるといったところが一つ特筆するテーマにならないかなと思います。

川谷 鈴鹿も産業の街で、ものをたくさん作っていますが、海外に子会社を作ることも目立ってきているので、これから先、企業はどの様に感じられるのか非常に興味を持っております。

また、モノづくりも大切ですが、これからは水環境も非常に大事ではないかと思います。「鈴鹿山麓の水」という水がありますが、鈴鹿市からはその水はどれも取れないらしいです。三重県の反対側の滋賀県でないとおいしい水が取れないというくらい、地域が悪化してきているのが今の現状ではないか。従って、産業を活性化していくことも非常に大切ですが、自分たちの老後、また子供たちの老後のために、住みよい環境、自然環境をなるべく汚さない、汚れていかないというまちづくりの進め方も非常に大事なかなと思っております。

私は写真家をしており、以前、東海道五十三次の各所各所を撮影したことがあります。昔の道で、松や石碑などが残っており、立派な場所がありますが、撮影しようと思うと車を止める場所がない。歩いてそこを横断しようという気になれないくらい、一般市民にはなじんでいないと思います。駐車場もない所で、どの様に街を見ればいいのかでしょう。せっかく昔の人が歩いた街が残っていても、道として活用されてない。関町では、地域で昔のまちのたたずまいを作ったり、村々でそういう地域づくりを進めているようです。しかし、若者も私たちも含めて、新しい店が

できればそちらへ行ってしまう。日替わりで店を変えるというような習性に人間がなってきたるように感じます。

そんな状況ですが、おかげ横丁はとても人気が高く、リピーターも多い。伊勢神宮の参拝者よりも、おかげ横丁に行く人の方が多いというデータも出ているようです。中部国際空港へのアクセスも良いので、おかげ横丁のような魅力ある地域づくりをして、観光で生きていけるような環境を整備し、世界中の人が来ていただけるような地域になれば良いなと思っております。

岡村 私は、モノづくりという話もありましたが、人づくりも必要ではないかと思います。家庭教育の低下、若者の社会教育の低下ということが言われています。教育を向上させるためには、家庭や社会の中で、色々な意見やニーズに触れることで覚えることが必要だと思います。やはりまちづくりも、どんどん進めていくべきだと思います。まちづくりという形で、交流をどんどん進めていけば、家庭教育、社会教育が進んでいくのではないかと思います。

また、少子化と高齢化が進んでいます。小学校でも児童の人数がものすごく少ない学校が増えています。そういうことも考えると、街の充実、生き生きとした街を作っていくことが必要ではないかと思います。

また最近、高齢者の電動車椅子が目立ってきています。歩道がない道の端っこをチョロチョロと走っており、危ないなと感じます。それから、昼間の街の中には、通学時の子供たちや買い物のお母さんたちがたくさんいらっしゃる。そういう方々が住みやすい環境が必要だと思います。障害者だけでなく、お母さんのベビーカーもバリアフリーの対象だと思います。高齢者も含め、すべての人々が住みやすい街にしていけたらなと思います。

稲毛 アンケートの結果では、V番、VI番、VII番、環境保全であるとか誰もが生き生きと暮らせる街、あるいは地震に強い街とか、こうした人が生きていく上でまず基本としなくてはいけない部分が少ない。これは、回答者のほとんどが男性であることが影響していると思います。今後はこういった討論会では、是非男性女性半々でお願いしたいと思います。

ところで、好きだった景観がいつの間にか道路に変わっていることがあります。やはり残すべきものは、きちんと子供たちに残していくことが必要です。利便性を追求する前に、環境保全をまず第一にこれからのまちづくり、地域づくりは考えていただきたいと思います。

それから、この場に若い方があまりいらっしゃいません。10年後、20年後を考えるのならば、若い人たちの意見を聞きたいです。今の若い人たちが、自分たちの街の20年先をどう思っているのか。その意見を聞くことは、必要なことだと思います。

このパンフレットには、例えばスーパーマーケットなど人が集まる所で意見を聞いたり、ファーストフード店で計画の情報を掲載したランチョンマットを出したりしています、とあります。こういう密室で会議を開くのではなく、例えば駅のコンコースや気候の良いときであれば県民の森で緑に囲まれて会議をすれば、若い人たちも出席しやすいのではないかな。そういう工夫がこれからは必要かなと思いました。

渡辺 ありがとうございます。早速アンケートの集計結果についてご紹介をお願いします。

司会 まず、当地域の課題に対する要望は、全部で94票いただきました。その中で一番票が多かったのが、Iの「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」が33票でした。次が、IIIの「東海感

情都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」が2番で20票でした。3番が、Ⅵの「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」で13票です。

それから、中部の課題の方は、全部で92票いただきました。1番目は、Ⅰのモノづくりなどの競争力の強化で27票です。2番目は、Ⅳの「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」で22票でした。3番目は、Ⅲの交流の拡大というのが11票でした。

渡辺 ありがとうございました。それでは、アンケートの結果を参考にご発言下さい。

聴講者 鈴鹿市から来ました、北勢県民局の鈴鹿・関・亀山生活ビジョン推進会議の水を考える会に携わっています。最近では、公民館活動で子供たちと作ることの楽しみ、感性を描くということで絵本づくりを推進しています。子供たちのためにもっと考えないといかん。それから、伊勢湾ということを考えないといかん。それから、ハブ空港ということを考えてことがありますか。そういうことを考えて、まんなかビジョンを良い方向へ導いていただきたいと思います。よろしくお願いします。

渡辺 もうおひと方どうぞ。

聴講者 鈴鹿からまいりました。生まれは桑名で、仕事は四日市のコンビナート関係です。今まで国土交通省が、まんなかビジョンの策定を進めておられ、中間発表までされているということを知りませんでした。おそらく、私の家内や会社関係の人間に聞いても知らないと思います。

折角これだけの計画を進めておられるのですから、もう少し我々一市民向けのPRに力を入れていただけたらと思います。例えば、市町村役場でチラシを配るとか、アメリカをモデルケースにしたようなPR活動を街頭で行うとかをしないと、住民の印象としては、行政が知らないうちに計画をして道路を整備したということになる。折角、良いスケジュールを立て、良いプランを練っておられるのだから、もう少しPR活動を促進されたらなと思いました。

渡辺 行政の方もご発言をいただければと思います。

元野 ご意見、大変ありがとうございました。市民へのPR活動が足りないのではないかとのご発言は真摯に受け止めたいと思います。私も、社会資本整備において、今までは量的な拡大を目指して進めて参りましたが、質的な充実へと変わってきております。町並みの景観などについても、皆さんからの指摘のように、なかなか地域に即してないということがございます。

社会資本は機能更新の時期に来ていますので、できるだけ皆さんの意見を入れながら、機能更新の際に地域の風土や景観、さらには産業になじんだものに仕立て上げていく必要があると考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

渡辺 運輸局の開口さんは後で総括の話をいただきますので、県民局の鈴木さん。

鈴木 私ども県の場合も、地域づくりは地域の皆さんと一緒にやらせていただかないと、本当に地域の方が納得いただけるような街はできていけないと思います。

その意味で、会場でご質問をいただいた方々や、私どもの生活ビジョンなどにも関係していらっしゃる方々からの辛口のご発言は、非常に嬉しく思っております。自分たちの取り組みの不十分さを認識しながら、合併や特区の産業再生なども含めて、色々な分野で是非皆さん方と一緒に、この地域全体がよくなるように取り組んでいきたいと思っています。

渡辺 閉会の時間が迫っていますので、私の方で若干のコメントをさせていただきます。

色々な分野の話が出た中で、やはり 94 票の中で 1 位のモノづくりが 3 分の 1 というのは、女性の感覚からいうとちょっと偏っているのではないかというものの見方。これは、非常に大事な点だと思います。それから、こういう秋晴れの日には、森の中で会議をやったらどうかというご意見がありました。今まで、密室の中でスーツを着てネクタイを締めたおじさんだけがこういうことに関わってきたわけですが、だんだんと日本の社会も成熟化してきた中で、やはりスタイルも変えていかなくてはいいかん。そういうことで、私は、今日はネクタイをはずしてきたわけですが、そういうセンスが非常に大事だと思います。

また、モノづくりも大事だが、それを支える人づくりというか、人が生き生きと生きていける、そして若者たちが希望を持ってキラッと光って将来を目指していけるような環境づくり、潤いのある環境作り、こういったことが非常に待望される時代になってきたと思います。

中部整備局は、社会資本の整備の中心を担ってらっしゃる。道路、港、それから公共交通を担っている。また、道路にしても生活道路もあるし物流のためのハイウェイもある、それから通過交通をさばくための道もある。色々なものがあります。限られた予算、資源の中で、そこをどういうふうに配分していくかということは、行政の方々が机の上で霞が関の指示にしたがってやってきた時代は、これは財政が豊かだったからできたわけでありまして、財政が豊かでないどころか大変なピンチになっている時代には無理です。

そうすると、この地域としてあれもこれもではなくて、これを我慢をしてこれを中心にやっていこうというのは、やはり住民の合意が要ります。そしてまた、道路の作り方とか、パークアンドライドが容易な駅整備の仕方なども、地域で活動している方や住民の方々の利用法や智慧を行政の人達が勉強する必要がある。欧米の成熟した地域では、NPOの人たちがそういうプランを作り、また、実施を請け負うということまでやるようになっていきます。

私は、日本の将来にとって大事なことは、欧米のようにNPO団体が税の優遇措置を受けて、NPO立ち上げに庶民がお金を出した場合に、税金を取らない制度を作ることだと思います。ある程度子育てが終わった人は、NPOの立ち上げに主体的な役割を果たす、それが例えば 60 を過ぎた人間として大事なことなんだという社会を作っていくことが大切だと思います。そうすると、生き生きとした社会に再生して行くのだと思います。

そういう意味では私ども住民も、行政依存、観客としてお任せ民主主義、観客民主主義にずいぶん甘んじてきたという気がします。ですから、行政のPR不足もありますが、そういうことを見ても「どうせ・・・」というような冷めた感覚があり、なかなかこういう所に足を運んでいただけないという現実があります。腰の重い庶民が腰を軽く、ゆったりした気分で、自分たちが主役だという自覚を持って活動し、その結果、自分たちの意見がまちづくりに生きるのだという手応えが出てくれば、住民の人たちが活動の中心になっていくと思います。

世界から厳しい目で見られていますが、日本の人々のレベルは非常に高いと思います。日本の古いシステムがなかなか活かしきれていない、という面があるのではないかな。だから、日本人の持っている豊かな感性、歴史的な感覚、そういうものが地域の中に生きてくれば、非常にこの街

らしい、桑名なら桑名の歴史が磨きかけられて光ってくる。鈴鹿なら鈴鹿、亀山なら亀山らしい、そういうものが大事だと思います。行政の圏域が合併などによって、どうなるというような話は一つの手段に過ぎないのであって、この地域としてはこんなふうに光る方向をみんなで目指すんだというようなものの見方がエネルギーとなれば、非常に良い地域になっていくことができるだろうと思います。

このような機会は、みんなで意見を出し合い、勉強し合う機会だと思います。やはり人の意見に耳を傾け、それに自分の意見をプラスして考えを改めていくという柔軟な人の輪づくりというのが、良い地域、潤いのある地域を作っていく。また、社会資本にしても非常に使いやすい、そして付加価値の高い道や、駅や、港や、空港になっていくと思います。ですから、地域の人々のセンスや情熱などが、世の中の表面に出てきて方向づけに役割を果たしていくことが、良い社会を作ることに繋がると思います。そしてまた、中部という地域が、日本のど真ん中にあることは非常に大きなメリットであるし、また日本における役割を果たすことになるだろうと思います。

限られた時間で、このビジョンについて十分に意見が吸収ができたとは言えませんが、最終版までの段階に色々なご意見を寄せていただいたり、意見の往復をするような機会を作っていただけると伺っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思います。そしてまた、家族とか友人の方々にも積極的なPRの機会として、これからも発言をしていく一つの契機になることを願って、私としてのまとめとさせていただきますと思います。

司会 先生どうもありがとうございました。

開口 本日は、貴重な時間を頂戴し、おかげさまで四日市まんなかビジョン討論会を開催することができました。渡辺先生には伊勢市に引き続きコーディネーターをお願いし、また発言者の皆様には熱心なご討議をいただき、心より感謝を申し上げます。また、聴講の皆様にも熱心な聴講とアンケートの協力をいただき、ありがとうございました。国土交通省では、均衡ある国土の発展から個性のある地域の発展へと、国土交通政策の基本方針を転換しようとしています。より地域に根ざした対話を持続して行ない、地域と一体となった政策の展開を図っていくことが非常に重要だと考えているところです。利便性の前に、残すべきもの、生きていく基本となるものを残しながら利便性を考えていくことが必要だと痛切に感じさせていただきました。

本日いただいた貴重なご意見、ご提案を、今後中部ブロック全体の目指すべき方向、あるいは目指すべき将来に向かう目標策定に当ててまいりたいと考えております。なお、本日の検討結果は、ホームページあるいは地域の広報紙などに掲載して、広く地域の方々にお知らせしたいと考えています。まんなかビジョン討論会は、以上をもって閉会いたします。ありがとうございました。

以上